

秋田市における訪問介護事業所の立地と利用者特性

熊谷 有希子

キーワード：秋田市 訪問介護事業所 併設サービス 立地特性 利用者特性

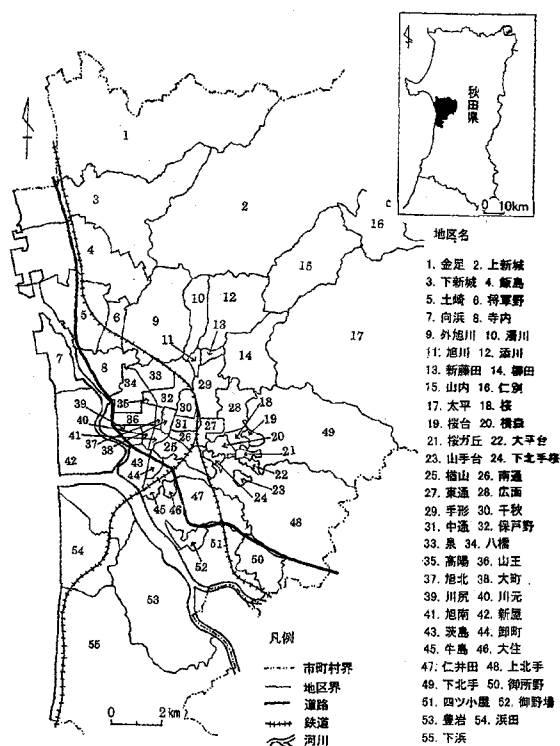
I はじめに

近年、日本では高齢化が顕著に進展し、高齢者福祉に関する地理学的研究も齋藤(2001)や中村(2002)等があり、増加傾向にある。

本研究は秋田市に立地する訪問介護事業所の立地特性と利用者特性を考察する。研究資料は、現地調査と聞き取り・アンケート調査により収集した。

II 研究対象地域とサービスの概要

秋田市は秋田県の中西部に位置する県庁所在地である(第1図)。秋田県の高齢化率は全国でも高く、



第1図 秋田市における各地区の名称(2004年)
(秋田市発行2万5千分の1国土基本図「秋田市都市計画図」より作成)

秋田市の高齢者人口も増加傾向にある。

研究対象サービスである訪問介護は、利用者の自宅に介護員(ヘルパー)が訪問する在宅サービスの一つである。介護保険導入以前は特別養護老人ホームが秋田市委託事業として行ってきたが、現在は民間事業者の参入が増加している。本サービスは幅広い身体状況の高齢者を対象とし、生活の基本要素を援助する。

III 訪問介護事業所の立地特性

2004年10月1日現在秋田市には47の訪問介護事業所があり、うち44事業所の立地場所を確認できた。訪問介護だけでは、立地特性を検討しにくいので、併設サービスの特徵別に以下の4タイプに区分した。

- ① 特別養護老人ホームに併設されている事業所
- ② ①以外のサービス施設に併設されている事業所
- ③ 在宅サービスを併設している事業所
- ④ 居宅介護支援を併設しているか

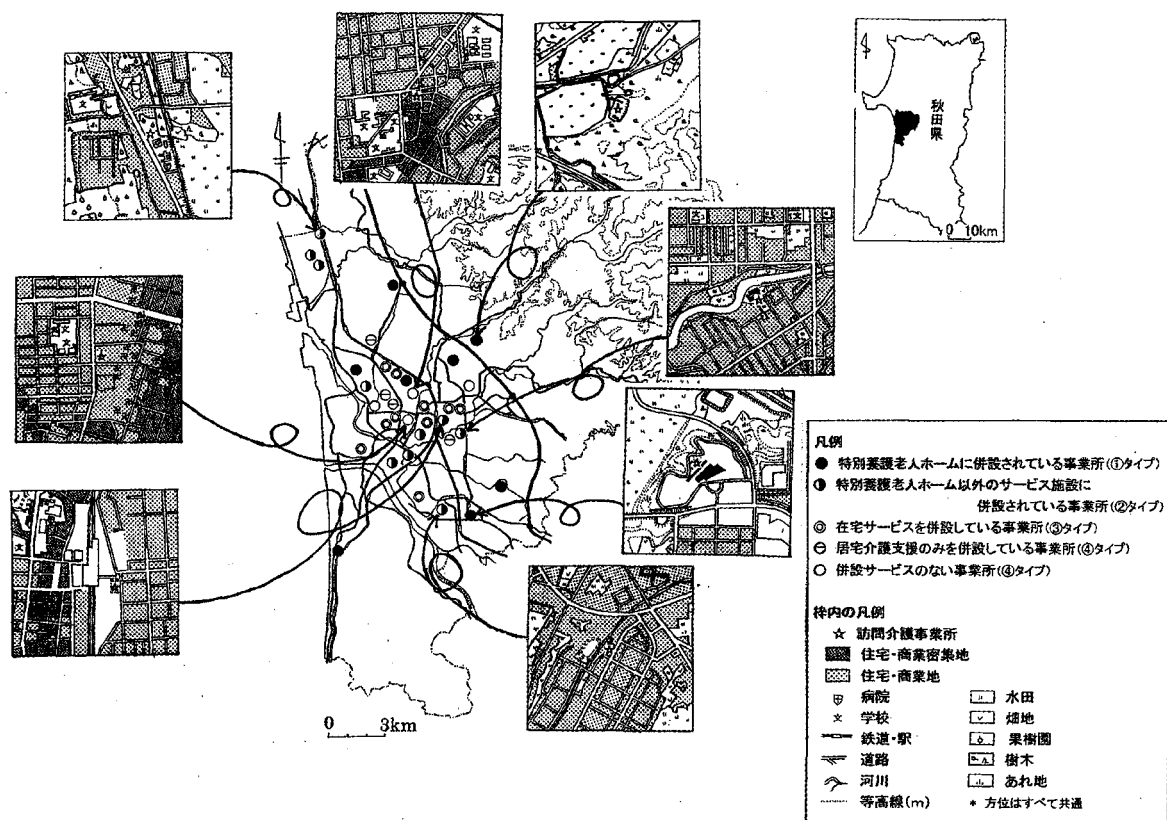
併設サービスのない事業所

第2図をみると、①タイプや②タイプのようにサービス施設に訪問介護が併設されている場合、市の郊外に大規模に立地することが多い。これはサービス施設が広い敷地面積を必要とするためであり、一般者も利用できるような、福祉施設以外の機能を有する事例もみられた。

在宅サービスを併設している、もしくは併設サービスのない③タイプと④タイプの事業所の場合は、市の中心部近くに多く立地している。④タイプの中には経済的理由から、中心部でもその縁辺部に小規模に立地する場合がみられた。

訪問介護事業所と併設サービスの立地関係からみた事業所の特性については以下のことがいえる。

訪問介護事業所は利用者が常に訪れる場所ではなく、ヘルパーの常駐所でもないため、事務所的な役割が強く、事業所面積は必ずしも広くない。



第2図 秋田市における併設サービス別に見た訪問介護事業所の分布(2004年)
 (中央の図は2004年3月～2004年9月の現地調査と聞き取り・アンケート調査により作成、
 枠内の図は2万5千分の1地形図「秋田東部」「秋田西部」「羽後和田」より作成)

サービス施設に併設されている場合でも、訪問介護事業所自体は会議室程度の大きさである。②タイプや③タイプの中には一般住宅を利用している事例がみられた。そして④タイプは借家よりも小規模で、アパートの一室や、以前は学習塾に使われていた場所などを利用した事業所が多い。この場合新しくサービスを併設する時に、場所確保の面で問題がある。

IV 訪問介護事業所における利用者の特性

次に聞き取り・アンケート調査ができた36事業所の利用者特性を考察する。

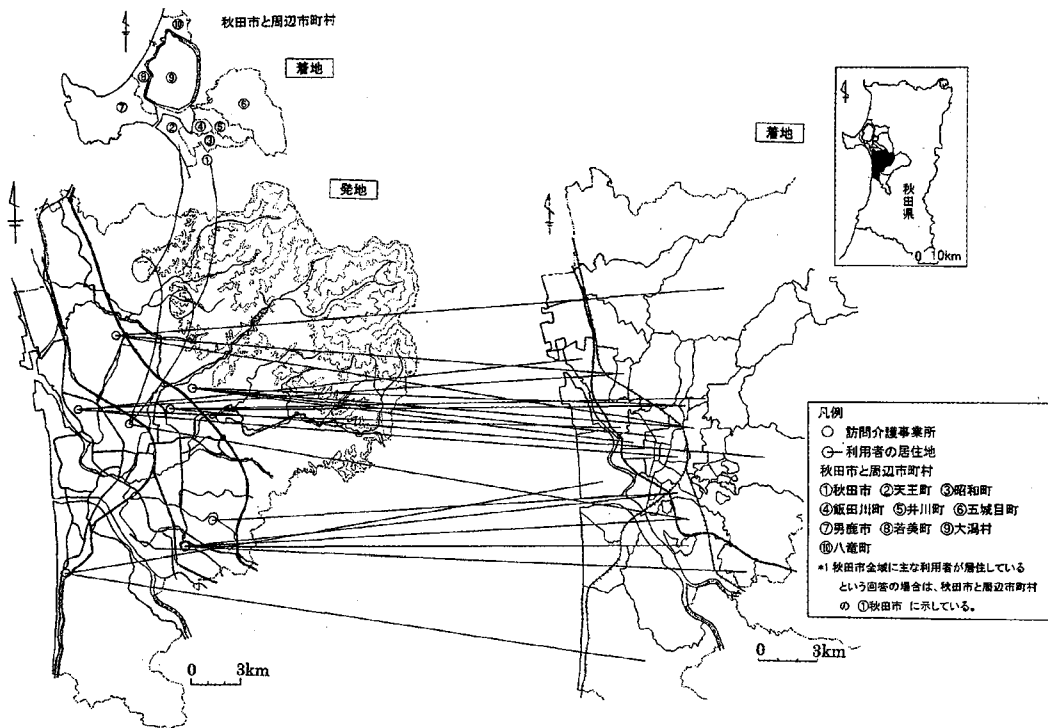
1. 利用者の居住地特性

①タイプや②タイプの場合は事業所の周辺にまわって利用者が居住していることが多い(第3図)。特に①タイプの場合にその傾向は顕著である。聞き取りでは、特別養護老人ホームに重点を置く事業所

がほとんどで、訪問介護に対する積極性はあまり感じられなかった。②タイプは利用者居住地の範囲が①タイプに比べ広がっているが、事業所によりまちまちで、①タイプと後述する③タイプの混合型であるといえる。

②タイプの利用者居住地は先に述べた2つのタイプより全体的に広域化している。市町村合併の影響でサービス提供範囲が広がったという事業所もみられた。この場合、秋田市外でも合併した南部の河辺町や雄和町に利用者が居住している。また、ヘルパー数に比べ利用者が多く、訪問介護に積極的な姿勢をみせる事例もあった。

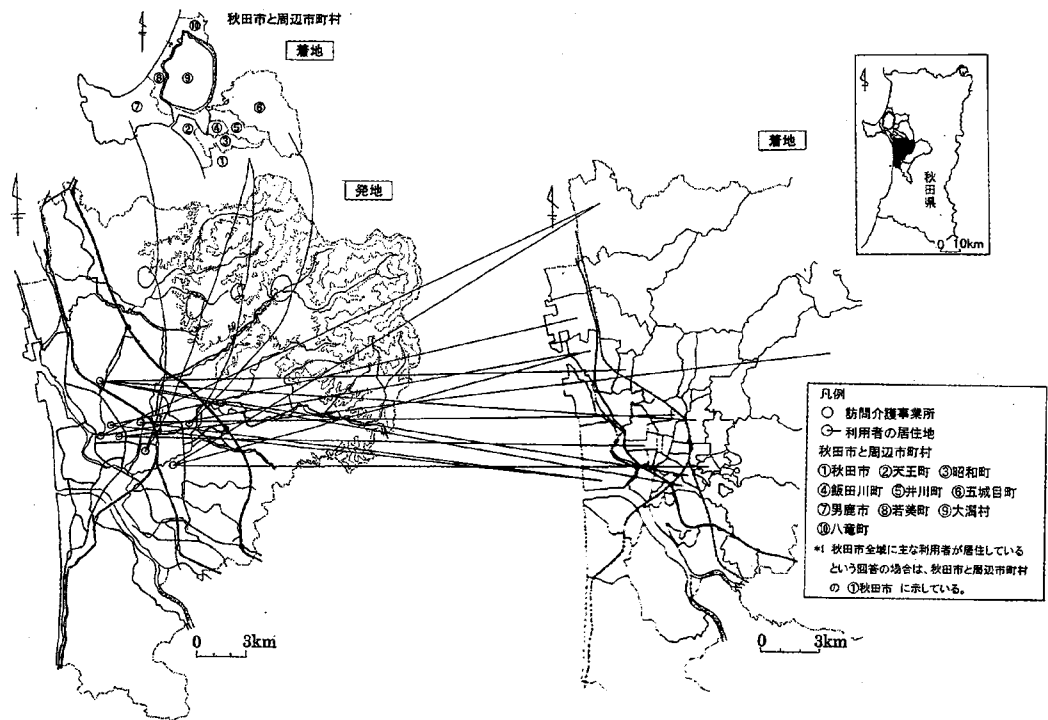
④タイプの特徴のひとつとしては、介護タクシーが挙げられる。秋田市内で訪問介護を行っているタクシー会社4社のうち調査ができたのは3社で、2社が介護タクシーを行っている。そして2社とも秋田市全域や市外に利用者が多く居住している(第4図)。また、個人で立ち上げた事業所が多く、サービス対象外である草むしり等を個人的に行っている



第3図 秋田市における訪問介護事業所（①タイプ）の利用者居住地（2004年）

※①タイプとは特別養護老人ホームに併設されている事業所を指す

（国土地理院発行50万分の1地方図「東北」および2004年4月～2004年9月の聞き取り・アンケート調査により作成）



第4図 秋田市における訪問介護事業所（④タイプ）の利用者居住地（2004年）

※④タイプとは居宅介護支援を併設しているもしくは併設サービスのない事業所を指す

（国土地理院発行50万分の1地方図「東北」および2004年4月～2004年9月の聞き取り・アンケート調査により作成）

という事業所もあった。さらに一件のサービスに費やす時間が長い利用者居住地が狭い範囲に留まっている事業所もある。このような事例は他のタイプにはみられず、ヘルパー数や利用者数も多いことから、4つのタイプ中では最も訪問介護に積極的なタイプといえる。

2. 利用者におけるサービス利用の特徴

季節で見ると盆・正月に利用が少ない。この理由として、「利用者が体調を崩しやすい」あるいは「行事で帰省した家族が介護してくれる」もしくは「介護される姿を親類に見られたくない」という回答があった。逆に利用者が多いのは春である。「季節柄、新しく何かをはじめようという人が多いのではないか」と答える事業所があった。また、1日のうち朝と夕2回のサービスを希望する利用者が多い。この場合、2回のサービスで朝と昼や夕の食事をまとめて作るという事例もある。

サービス利用者の半数以上は女性である。そしてヘルパーは話があって料理も上手な40代くらいの主婦がいいという要望が多い。さらに、自分の排泄物の処理等を男性ヘルパーにやってもらいたくないと言う利用者もいる。そのため事業所側も男性や若いヘルパーを導入できず、ほとんど40代から50代の主婦をパートとして採用している。

V おわりに

本研究は、秋田市に立地する訪問介護事業所とその利用者の特性を考察した。その結果、以下のようことがわかった。

事業所の立地は、併設サービスの種類によって異なる。特にサービス施設に併設されている事業所の場合、広い敷地面積が必要となり郊外に立地する。在宅サービスを併設しているか併設サービスのない事業所は、市中心部付近に小規模に立地している。さらに、個人で起業した事業所は、経済的理由から中心部の縁辺に立地する傾向にあった。訪問介護事業所自体の面積はどの事業所も一様に狭い。

利用者の特性は、在宅サービスを主とした事業所

の場合、施設サービスに併設されている場合より広範囲に利用者が居住している。特に、特別養護老人ホームに併設されている事業所は、事業所周辺の狭い地域内に利用者居住地があることが多い。また、事業所の聞き取りから訪問介護に消極的なこともわかった。それに対して在宅サービスを主とした事業所は、積極的に市外の利用者も受け入れており、聞き取り調査からも積極的な結果が得られた。

このことから、今後訪問介護の利用者を少なくとも量的に支えるのは、在宅サービスを主として事業を行う事業所であると考えられる。

利用者の特性に関しては、利用者の体調や心的要因から盆や正月に利用が少ないという傾向がある。そして、1日の中では朝と夕2回の利用が多いこともわかった。また利用者は女性が多く、彼女たちの志向から主婦のヘルパーが多くなっている。そのため事業所も男性や若いヘルパーを採用できないという事例もあった。

今後高齢化はさらに進行することが予想され、福祉サービスもいっそうの充実が求められる。また市町村合併により河辺町・雄和町を含めた旧3市町の訪問介護事業所において、提供範囲が大幅に拡大することから、立地や利用者特性の変化も予想できる。

聞き取り・アンケート調査の際には秋田市内の訪問介護事業所の方々にご協力・ご助言を賜った。

資料収集に際して、秋田市福祉保健部の方々にご協力いただいた。

本研究の作成にあたっては、秋田大学教育文化学部の篠原秀一先生をはじめ、肥田 登先生、松村公明先生から終始貴重なご助言・ご指導をいただいた。

末筆ながら以上の方々に深謝申し上げます。

文 献

齋藤幸生 (2001) : 介護保険制度導入にともなう訪問型在宅サービスの展開—松本市を事例に一、地域調査報告23, 11-20.

中村恵美子 (2002) : 秋田市における高齢者保健福祉サービスの展開. 秋大地理, 第49号, 57-60.